

国際ビジネスコミュニケーション学会

「第 80 回全国大会記念 オンライン・シンポジウム」

決定概要



シンポジウム実行委員会

As of 2021.8.19

1、シンポジウム実施概要：

日時：2021年9月12日（日）

時間：14時00分～15時30分（予定） 13時45分開場

会場：コロナ感染を配慮し特定会場を設置せず、終日オンラインによるライブ配信のみ

参加料：無料

参加募集定員：先着順にて300名まで

* 今回の申し込みは、一般の方も同時に募集開始となりますので、この定員を超えた以後は、ご参加を頂けませんのでお早目のお申し込みをお願いします。尚、定員を超えた以後のお申込者様には、大変恐縮ですが、ご参加いただけないことを事前にお知らせいたしますのでご了承ください。

* シンポジウム配信後、内容を編集して、期間限定でJBCAのHPにて動画配信公開の予定

Zoomを利用したオンライン・シンポジウムへの参加方法について：

会員、一般問わず、全てのシンポジウム参加希望者はJBCAのHPにご用意します、以下の google form から参加申し込みをしてください。

<https://forms.gle/y8qvUuDSvrL9gSAy8>

尚、google form でお申し込み頂いた皆様には、開催日前日の9月11日（土）までに、Zoomのアドレスをお知らせしますのでメールをご確認ください。

2、シンポジウムテーマ：『これからのビジネスコミュニケーション：コロナ禍、VUCA、グローバル化』

* 全体を1時間半から2時間以内とし、2部形式によるパネルディスカッションを中心としたシンポジウム

3、シンポジウムのねらい：

昨年から続くコロナ禍はビジネス環境を変化させている。多くの問題が生じたが、視点を変えればそれは「働き方改革」などを一気に推し進める原動力ともなっている。そのような状況において、（日本国内の各企業の中で、社会と企業の両方の環境に順応し始めた若手会社員たちは、この一年間をいかに過ごしてきたのであろうか。）本シンポジウムでは、そうしたコロナ禍環境下におけるビジネスパーソンのコミュニケーションにフォーカスする。対象とするのは、一人で仕事する責任を持たされ、後輩もでき、仕事の理解が比較的進んだ年齢となった若手から中堅になろうとする会社員達である。彼らにこれまでの数年間、特に昨年からコロナ禍という大きな環境の変化を振り返ってもらい、社内外でどのような仕事上の変化や苦勞が生じているのか、コミュニケーションの観点から問題提起してもらう。

今回のパンデミックはビジネス関係者に、元々は軍事用語であった「VUCA」という概念を改めて考えるきっかけを作った。この VUCA 時代において、企業はどのような変革を実行すれば良いか、デジタル、グローバルなどのキーワードも踏まえ、国際ビジネスコミュニケーションの観点から考察し、提言をまとめた。

4、実行スケジュールとシンポジウムの流れ（構成案）：

オープニングメッセージ：5-7分

テーマの主旨説明…コーディネーター，自己紹介含めて（2分程度）

開会のあいさつ、シンポジウム企画主旨、今後の学会についてなど。

国際ビジネスコミュニケーション学会理事長 和光大学教授 小林猛久

前半予定時間：約 70-80分

- ① パネリストの紹介…パネリスト 2 名の紹介、専門家（大学教員）3 人の紹介（計 10 分）
- ② 進行と流れ説明…コーディネーター，シンポジウムの進め方について概略説明（3分程度）
- ③ パネリスト問題定義…テーマについて要旨発言（各 5-7 分程度 x2 名=10-14 分）
[パネリスト 1 によるプレゼンテーション]「外資系日本企業におけるコロナ禍でのグローバル的ビジネスコミュニケーションの現状と問題点について」（5-7 分）
[パネリスト 2 によるプレゼンテーション]「日本系大企業におけるコロナ禍の対面とテレワークでのビジネスコミュニケーションの現状と問題点について」（5-7 分）
- ④ 論点整理…コーディネーターによるパネリストの質問・回答，論点整理（5-7 分程度）
- ⑤ テーマ討論…論点整理に沿ってビジネスコミュニケーションの専門家である大学教員たちとパネリスト，コーディネーターの相互発言、参加者による質問・回答，意見交換（30-40 分程度）
- ⑥ 問題定義の整理：第 2 部への問題整理 + 第 1 部終了挨拶…コーディネーター（10 分程度）
* ここで 2 人のビジネスパーソンは終了、退出。

後半予定時間：30-40分

- ① 第 1 部のまとめと問題定義の整理…コーディネーター（5 分）

* 第 1 部参加の大学教員 3 名 + 小林理事長が加わる。

② 2人のビジネスパーソンからの問題定義について4名の大学教員とコーディネーターによる相互意見交換とまとめ、その他の学会員からの意見参加(1-2名)(20-30分)

③ JBCAとしての提言発表(小林理事長)(5分)

④ 第2部の終了と小林理事長からのご挨拶(2分)

小林理事長：全体を通してのシンポジウムの総評、一般参加者・パネラー・提言者に対するお礼、今後のJBCAへの参加呼びかけ、そして閉会の挨拶

コーディネーター：閉会のご挨拶。終了。

5、シンポジウム当日のパネラー(決定)：

問題提起側：

パネリスト1：深谷由美さん：社会人4年目。27歳、現在シリコンバレー本社の外資系コンサルティング会社PLUG AND PLAY JAPANに勤務。日本とアメリカのスタートアップ会社を日本の大企業に紹介するお仕事を従事されている。

パネリスト2：濱田航司さん：社会人4年目。27歳、現在日本放送協会(NHK)大阪支局 編成局勤務、番組の企画と編成を担当されている。

回答側：

パネリスト3：ビジネスコミュニケーションの専門家(JBCA学会理事：明治大学准教授 金子敦子先生)

パネリスト4：ビジネスコミュニケーションの専門家(JBCA学会理事：近畿大学教授 小林一雅先生)

パネリスト5：ビジネスコミュニケーションの専門家(JBCA会員：明治大学教授 塩澤恵理先生)

提言のまとめ役：小林理事長

MC・コーディネーター：後宮昌樹(ソニー・ピクチャーズ・アドバイザー、ビジネス・コンサルタント)

以上。